

てください。女の子には、聴く姿勢が大切です。次は「聴く」についてお話しします。



4. 「聴く」ことの大切さ（傾聴受容）

つい日常使ってしまう「でも」「だけど」。この「でも…」「だけど…」という否定の言葉は使わないように心がけるだけでだいぶ違います。まず、1ヶ月間実践してみませんか？

同じ「きく」でも、聞く（hear）訊く（ask）聴く（listen）は違います。ついやってしまうのは「訊く」でしょう。大切なのは、子どもが話をしたくて聴いてほしいというタイミングで「聴く」こと。タイガーウッズの父親は、必ず仕事の手を止めてこちらを向いて聴いてくれたそうです。子どもが話し出すまで、待つことも大切です。

また、受容するために、責めない・比べない・裁かない・見下さないを心がけましょう。子どもの話を遮らずに支持し、耳で聞き、心で感じ、目で見つめて「聴く」のです。これが傾聴受容です。これによって気持ちを伝え合うことができます。

5. 父母で行う子育て、地域で行う子育て

子育てはみんなで分かち合うもの。地域にオープンな子育ては、たとえ問題が起きて解決しやすくなります。子どもは問題を起こすことで、経験を積んで成長します。「孤育て」になっていませんか？「隔家族」になっていませんか？

地域とつながっている父親、母親の両方の大きな愛に包まれることで、子どもは安心することができます。

育児は「育自」。親子はいつまでも何があるかと親子です。自分自身とともに次代を担う子どもを大切に育てていきましょう。

子どもたちが夢を大きく育めますよう願っています。

■講演終了後、ほぼ全参加者がアンケートにご協力くださいました。アンケートから、講演を真剣に聴き、受けとめ、それぞれで考えた様子が伝わってまいりました。ご多用の中、本当にありがとうございました。

グリーン大作戦！

今年も、公益財団法人埼玉県緑化推進委員会からのご支援、および浦和区公立小中学校 16 校のご協力をいただき、グリーン大作戦を実施しました。

これまで4年間実施してきたツル科植物ゴーヤによる緑のカーテンも、配布した苗から緑のカーテンを作り遮光効果を体験し、採取した種を翌春発芽させて、また植栽するという循環型緑化活動が各校で定着してきました。今年は、ゴーヤ苗の代わりに多年草であるパッションフルーツの苗を配布し、新しい植物でのカーテン作りに取り組みました。



上木崎小学校 ①

また、校門周辺や校庭の花壇用に浦和区の制定花であるニチニチソウの苗を植栽いただきました。各校とも児童生徒、学校関係者・PTA 会員の皆さんが積極的に取り組んでいただいたおかげで、花壇を鮮やかに咲き飾ることができました。

今後ともこのような緑化活動を通して、子どもたちの花や緑を大切に作る心を育てて参りたいと思います。



上木崎小学校 ②

グリーン担当；高田岳人